

未来の音楽家が、学び・挑戦し・成長できる環境を！



箕面市立文化芸術劇場小ホールでのコンサート風景(2025年3月9日)

関西・大阪21世紀協会は、未来ある若手クラシック演奏家支援のためにトヨタモビリティ新大阪から託された寄付を活用し、一般社団法人Reiseが主催する室内楽セミナー「Reise String Laboratory」の支援を開始した。

Reise String Laboratoryは、大阪の小規模ホール・今福音楽堂(大阪市城東区)が、若手音楽家育成のために立ち上げた室内楽セミナーだ。少人数で演奏する室内楽の魅力は、個々の楽器の音色や個性が際立ち、演奏者が音楽で会話をしているような親密さにある。しかし、Reise代表理事の長尾賢さんは、「少子化やコロナ禍の影響で音楽大学への入学者が減少し、奏者が揃わず室内楽を学ぶ機会が減っている」という。自身も演奏家の長尾さんは、コロナ禍で音楽をあきらめる仲間たちに活動の場を作ろうと2020年に今福音楽堂を設立、2023年、ヴィオラ奏者の牧野葵美さんが発起人となり、二人は大学の枠を超えた室内楽の学びの場Reise String Laboratoryを始動させた。

BBCフィルハーモニック(英)の副首席奏者として活躍した牧野さんは、「留学先で経歴や年齢、生い立ちの違う人たちと室内楽を演奏した経験は、技術だけでなく自身の音楽表現の幅を広げてくれた」と語る。そこで、講師が一方的に指導するのではなく、参加者同士が刺激しあうセミナーにしたいと考え、二人は師匠である小栗まち絵さんに音楽監督を依頼した。小栗さんといえば、室内楽の国際コンクールで数々の賞を獲得し、海外で活躍した後、優れたヴァイオリニストを多く育てた名伯楽。さらに、

パリ国立高等音楽院准教授の梁美沙さん(ヴァイオリン)、日本フィルハーモニー交響楽団のソロ・チェロ奏者・門脇大樹さんを迎え、講師陣を充実させた。

Reise String Laboratoryのリハーサルは長い。コンサート前には、講師と受講生が寝食を共にする3泊4日の合宿と2日間の公開リハーサルも行う。「じっくりと音楽に向き合う時間を共有することで、遠慮がちだった受講生も考えをぶつけるようになり、音楽の理解が深まり、演奏も格段に進化する」と長尾さん。小栗さんも「音楽をやっていく本質は、一人ひとりの楽譜に対する感性を大事にすること。時間はかかるが、若い時のこうした経験は将来かけがえのないものになる」と目を細める。

今年3月9日に箕面市立文化芸術劇場小ホールで行われたコンサートでは、過去2回の受講生と講師によるアンサンブルが披露され、演奏を終えた彼らの顔には講師と生徒という関係を超えた一人の奏者としての達成感と高揚感が溢れていた。

始まったばかりの「Reise String Laboratory」。名前の通り、この実験室から今後、驚くような化学反応が生まれ、クラシック音楽業界に新たなイノベーションを巻き起こしてくれることだろう。



講師をつとめた左から牧野葵美さん、梁美沙さん、小栗まち絵さん、門脇大樹さん



一般社団法人Reise 代表理事 長尾 賢さん



山東カントリークラブ(兵庫県朝来市)で行われた音楽合宿の様子